

図書館長・本館整備担当課長と意見交換

2020年3月23日（月）17時～18時

多摩市の社会教育を考える会

図書館本館実施設計と基本計画の進め方の確認と当会からのお願い

昨年（2019年11月）、図書館本館再整備での市民意見の尊重、豊ヶ丘図書館や東寺方図書館を含む7館体制の堅持などについて教育長と意見交換をさせていただきました。今回はその後の進捗状況や今後の課題などについて懇談を通して共有したいと考えております。

多摩市が図書館を7館から3館という削減を含んだ「多摩市公共施設の見直し方針と行動プログラム」（平成25）を突如発表したのは、6年前の秋でした。市民から「図書館存続」の意思が15,000筆以上の署名として集まりました。その結果、現在はプログラムが更新され、7館体制が維持されることになりましたが、まだプログラムの大きな流れはほとんど変わらず存在しています。

多摩市では多くの市民が図書館を利用（全国上位の貸し出し数、予約数）し、「なくなったら生活に影響する施設」（平成24）では市役所に次ぐ2位、「よく利用する施設」（平成28）は1位、「多摩市政世論調査」（平成28）では「地区図書館」の必要度は4位など、利用実態、アンケート調査結果にも表れているように、多摩市民にとって図書館は重要な施設であることは疑う余地がありません。

多摩市には「市民の意思に基づき」行政をすすめる自治基本条例があります。

私たち「多摩市の社会教育を考える会」は、「わたしたちの図書館」とみんなが思える、本当に市民の学びの力になる多摩市の図書館をつくっていくために日々活動しています。また、多摩市教育委員会とともに、図書館7館体制をさらによりよいものとし、また社会教育機関としての公民館2館体制を堅持し、社会教育施設としての博物館を含むよりよい社会教育体制を多摩市につくっていくために、今後も市民として努力していきたいと考えています。

以下3点について意見交換をさせていただきますようお願いいたします。

1. 図書館本館再整備について

○中央図書館実施設計の状況確認

2019年8月の基本設計策定後、実施設計策定について、11月22日に清水教育長との面談の折に、市民との丁寧な意見交換の場を設けて欲しいと要望しましたが、2019年12月の「多摩市に中央図書館をつくる会」主催の講座で一部エスカレーター設置やトイレの設置についてなど経過・変更の説明がありました。その後も要望した説明の機会がなかったので、現在の状況を教えてください。

○中央図書館の運営について

2022年秋に建物が完成後スムーズに運営が開始できるよう、運営についての検討が始まっていると思いますが、市民との意見交換の場をどのように作るのか教えてください。

○地域館とそれを支える中央図書館とのネットワークについて

中央図書館整備とともに、多摩市の図書館全体としての図書館ネットワークの運営をどのよう

にしていくのか、大きな関心を寄せていますが、その計画を教えてください。また地域館利用者の声をどのように反映させるのか教えてください。

○図書館運営を支える専門的職員の体制について

令和2年度の予算書の職員の予算について、司書有資格の正規職員3名が配置される予定と聞いていますが、定数が増えるのか交換異動で配置されるのか教えてください。また、昨年関戸と聖ヶ丘図書館で欠員になった嘱託職員(会計年度任用職員)が配置されるのかも教えてください。

2. 大規模修繕が必要となっている豊ヶ丘図書館、東寺方図書館について

大規模修繕に向けたプロセスにおいて、市民の意見交換、合意形成にむけた段階でのワークショップ方式に問題を感じています。地域図書館に関して、教育委員会が責任をもって関わっていないのではないかという疑問は、教育長にお伝えしましたが、その後地域館整備計画について図書館としての検討が行われていますか？

3. 当会から進め方についてのお願い

基本構想策定の方法として、丁寧な関係各団体とのヒアリングが行われましたが、これから上記1. 2の検討が行われる時に、同じように丁寧な意見交換の場を設けてください。